

2. 平成27年度の事業報告

1) 平成27年度事業の背景と概要

平成27年度は、マスコミで取り上げた問題等で、本学園にとって厳しい環境でありましたが、学園が一体となり、様々な改善計画・再発防止策等を検討してまいりました。また、建学の精神(①学識と技術の錬磨②報恩の精神③不撓不屈の精神)に則り、様々な教育諸事業を展開してまいりました。

地域の皆さまからのご支援もいただき、現在ではトップエリート教育体系高(高等学校、中学校、小学校)とプロフェッショナル教育体系高(大学、専門学校)のふたつの教育体系を擁する総合学園として、様々な分野で次代を担うリーダーの育成を使命とした教育に取り組んでおります。

また、本学園の教育のもう一つの大きな柱が「ホスピタリティに根差した教育活動」ですが、「真に社会に認められる人材は、思いやりの心に根差した豊かな人間性を身につけることが不可欠である」との基本理念のもと、学園全体がホスピタリティを基盤とした人材育成を目指し、当年度におきましても各校それぞれに特色を生かした地域活動や社会貢献活動を実践してまいりました。

着実に進行する少子化の影響、不透明な経済情勢等により、私立学校の経営環境は厳しさを増しておりますが、今年度の学園創立50周年も踏まえ、更に魅力ある学園づくりに取り組んでまいります。

2) 部門別の諸活動報告

(1) 法人本部

① 記念事業について

本学園は今年度に学園創立50周年を迎えますが、諸般の状況に鑑み、記念事業等は自粛方針とさせていただきます。しかし、50周年ロゴマークは広報活動等に重要性を持つため、引き続き、幅広く活用していきたいと思っております。

② 学園内研修等について

私学の経営環境が厳しさを増す中、各校単位ではその時々課題に応じた研修会を開催しておりますが、全教職員が建学の精神・教育方針に基づく諸認識を共有するため、学園全体の横断的な研修も定期的実施しております。

平成27年度も6月の創立記念顕彰会や3月の新任職員研修等、認識を共有する学園教職員研修を実施いたしました。

③ 組織体系の変更、各種委員会の設置、規程の見直し等について

理事会規程の制定、コンプライアンス体制の構築、人事委員会制度の創設、内部監査制度の創設、経理規程の見直し、法人管理組織の見直し等々の整備を進めてまいりました。また、大規模な人事異動、昇進、昇格等により適材適所の人員配置、新体制の土台作りに着手致しました。

平成28年度については本格的に各組織が稼働し、成果を見せていくこととなります。

④ ハンドベルコンサートについて

本学園の教育活動の一端を地元の皆様にご覧いただくことを目的として毎年実施している学園ハンドベルクリスマスコンサート(第13回目)も平成27年12月に狭山市市民会館にて開催致しました。

参加した児童、生徒、学生、保護者にとっては、日頃の練習の成果やチームワークを実感し、ホスピタリティ教育の一環として意義深い行事となりました。

⑤有価証券の運用実績について

平成27年度は5銘柄の償還・売却があり、総体で57,599,342円の運用利益が出ております。今年度も市況動向に留意し、状況により保有有価証券の売却等を検討していきたいと考えております。

(2)西武文理大学

①サービス経営学部

ア)キャリア教育の充実

サービス経営学部では学生のキャリア観や就業意識を早い段階から育成することを目的として、キャリア教育科目のうち体験実習の内容を充実させ、様々な展開を図ってまいりました。

これらの活動は、本学のカリキュラムの特徴である、「座学と体験を繰り返しながら4年間にわたってサンドウィッチのようにして学ぶ」の“体験”にあたるものですが、その特徴は3点あります。第1は、問題解決的で、目的志向的なProject Based Learning (PBL)の形態をとっている点です。第2は、多様な学習モデルを基礎とした学習カリキュラムで構成されている点です。下記のi)やii)は産学または地域連携による仕事の中の学びのなかに大学での学びを埋め込むことを特徴とする正統的周辺参加型の学習モデルを基礎としています。iii)は学び方を学ぶことを目的とした経験学習モデルにより、マイセオリーを紡ぎだすための省察を備えた本学部独自のプログラムです。第3は、チームワークやリーダーシップといった他者との関係から形成される状況を学びの内容であると学生が自覚して参加している点です。

i)産学連携・体験学習型サービスラーニング・チームワークラーニング・リーダーシップラーニング

項 目	参 加 学生数	項 目	参 加 学生数
東京国際映画祭の運営参加	133名	学内ブライダル	150名
東京ゲームショー	15名	仙寿庵ブライダルプロジェクト	5名
東京「春」音楽祭	15名	大宮アルディージャ	10名
イタリア映画祭	3名	埼玉西武ライオンズ	10名
東急渋谷音楽祭	10名	ちちぶ映画祭	8名

ii)地域貢献型サービスラーニング

- a)「ヒューマンサービスセンター」と連携した学生のボランティア活動推進。
- b)大宮アルディージャのコーチをお招きしてファミリーサッカースクールを実施、狭山・川越の少年団サッカー大会を企画・運営。

iii)学年別インターンシップ（主にホテル宿泊産業での実習）の実施。

項 目	時 期	頻 度
1年次後期インターンシップ	2～3月	ほぼ毎日
2年次長期インターンシップ	通 年	土曜・日曜を利用した半年間
3年次前期インターンシップ	8～9月	ほぼ毎日

イ) グローバルコミュニケーションセンター (GCC) 活動

一昨年の試行期間を終え、昨年度はGCCを正課外教育として運営を開始しました。マルケス

助教を採用しコミュニケーション力を涵養すべくイングリッシュ・ディスカッションクラス(EDC)を3つのグレードで開講し、各グレード20名の学生が同センターを活用しました。また、留学相談や留学生との交流の場として教員4名が常駐し相談支援を行いました。

り)社会貢献活動

i) ブライダル“絆”プロジェクトの継続

課題解決型学習(PBL)の一環でもある“本物の結婚式のプロデュース”では、“東北の方々のお役に立ちたい”という学生からの提案を受けて東日本大震災で結婚式を挙げる事ができなかった東北地方の方々からご応募いただく企画に継続的に取り組んでおり、平成27年度もこの「ブライダル“絆”プロジェクト」を実施いたしました。

ii) ヒューマンサービスセンター(HSC)活動

地域貢献活動の窓口として、学内に「ヒューマンサービスセンター」を設置しております。当年度も近隣の施設、公民館等におけるボランティア活動や、自治体・事業者と連携したプロジェクトなどを実施いたしました。参加人数も30名を超え、特に、「入間川七夕祭り」で継続的に実施している高齢者施設やごみステーションでのボランティアは、地域に根差した活動として高く評価いただいております。

②看護学部

ア)学生主体の学習活動の推進

看護学部では主体的な学びと自己学習能力の向上を目指した学生主体の学習活動の推進に取り組んでおります。

自己学習能力の向上を図るため1年次生から学生委員会を立ち上げ、学生自らが学習課題を見出し課題解決に向け組織的に取り組めるように支援し、学生主体の運営を促進した結果、1～3年生の学生の学修意欲が高まり、4年生の国家試験合格率も高まるという結果がでております。

具体的には、

1年生：「基礎学力の確認・強化と学習習慣の確立」

2年生：「学習習慣の継続と専門基礎・専門科目の到達度の確認」

3年生：「実習を中心として専門基礎・専門科目の学習統合と到達度の確認」

4年生：「看護師国家試験・保健師国家試験の全員合格の達成」

を狙いとして取り組みました。

今年度の国家試験の結果は、看護師国家試験は全国平均を上回る98.6%の合格率となりました。

イ)キャリア開発支援活動

看護学部では、学生が専門職を目指す者として生涯を通して自らのキャリアを追求し、開発する姿勢を養うためにキャリア開発教育と就業支援を行なっております。

具体的には、学生委員が中心となって、キャリア教育講座と就職支援講座の計画を立て、教員のサポートを得ながら企画運営を行なうことで、学修へのモチベーション維持につながっております。講座を運営するためには学年を超えての協力が不可欠であり、担当する学生の積極性や主体性を育てる効果も認められます。

＜キャリア教育講座＞					
	日 時	対象	内 容	講 師	出席者数
		学年			
I	8月4日	1年生	看護職者の体験談を聞き、学生自らが看護者を目指すもとしての自覚・意識を持ち、自らの看護者としての未来像を描くことができる。	①笠井翔太（精神看護学助教） ②大工原慈仁（成人看護学助教） ③井上寛隆（小児看護学講師）	1年生：83名
	10:40～11:40	2年生			2年生：84名
II	9月14日	4年生	看護師のキャリアについて：自らの理想となる看護師像と生涯にわたる看護活動	伊藤ふみ子(キャリア開発委員長)	4年生：72名
	13:30～14:00				
III	2月18日	4年生	卒後2年目の先輩からの講和：	①小野亜梨沙(埼玉石心会病院)	4年生：46名
	13:30～15:00	3年生	看護師としての成長プロセスを学び自らの看護観を育む	②島田敦(東海大学医学部付属八王子病院)	3年生：37名
				③青木一平(長谷川病院)	

＜就職支援講座＞					
	日 時	対象	内 容	講 師	出席者数
		学年			
I	4月3日	4年生	①就職支援情報（専願・併願について、送付書・お礼状の書き方等） ②キャリアサポートセンターの活用	越後谷キャリアサポートセンター部長	72名
II	8月6日	3年生	①病院の選び方や奨学金の受け方について知ることができる。	①卒業生 重松勇紀（埼玉石心会病院） ②内定者：清田一輝	84名
	13:00～15:00		②先輩の経験談を聞くことで、就職活動に対して具体的なイメージをもつことができる。 ③主体的な就職活動を行うために、就職活動の流れを理解できる。	③内定者：鈴木星菜 ④卒業生：石井可奈（越生町保健センター）	
III	3月2日		①各保健医療施設の説明を聞くことにより、施設の特性や機能の違いを理解できる。	①越後谷キャリアサポートセンター部長	<1部> 1年生：17名
	<1部> 9:30～11:30	3年生	②各施設の特性や機能の違いを踏まえたうえで、そこでの看護職の活動内容と役割について学ぶ。	②山本キャリアアドバイザー	2年生：13名
	<2部> 13:00～16:30	1・2年生の参加も可	③実際の看護職の活動内容を学ぶことにより、個々の学生が看護職としての将来のキャリアビジョンを描くことができる。	③埼玉県内はじめ近隣県の32病院の皆様	3年生：77名
			<午前>1部		
			採用試験の基本対策		<2部>
			<午後>2部		1年生：71名
		①各病院より1分間スピーチPR			2年生：31名
		②病院説明会、相談会			3年生：73名

平成27年度の卒業生の進路状況は以下の通りですが、ほとんどが看護師として就職し、保健師は1名のみでした。進学者はいずれも助産師養成課程への進学です。就職者の就業地は東京都が59%を占め、次いで埼玉県が33%でした。

平成27年度 卒業生の動向											
	卒業者数	就職者数	その他	採用職種別			施設の場所				進学
				看護師	保健師	その他	埼玉県	東京都	神奈川	その他	
男	3	3	0	3	0	0	3	0	0	0	0
女	70	66	1	65	1	0	20	41	3	2	3
計	73	69	1	68	1	0	23	41	3	2	3

り)宣誓式の実施

平成25年度からの新カリキュラムの導入により、従来より行ってきたキャンドルセレモニーは廃止し、平成27年度より宣誓式を実施しております。この目的は1～2年生においての基

礎的な学びを経て、これから本格的な臨地実習に臨む看護学部3年生が、看護を志す者として自らの心をしっかりと見つめ、今日までの自らの歩みを振り返り、将来に向けての自己の意志を固める機会とすることです。

平成27年度は、学長、埼玉石心会病院看護部長の出席を得て、看護学部3年生の保護者、看護学部1～2年生の出席のもと、個々の学生が自ら認めた宣誓書を一人ひとり読み上げ、実習に向かう心を新たにす機会となりました。宣誓式後の午後には保護者を交えての懇親会を開催いたしました。

エ) 学生生活調査の実施

看護学部では平成25年度より2年ごとに学生の学習環境と生活実態を把握し、学習支援と学習環境の改善を図る目的で学生生活調査を実施しております。平成27年度は前期の授業が終了した時点で調査を実施しました。回収率は1年生84.8%、2年生87%、3年生93%、4年生94.7%と概ね良好でした。今回の調査結果は、前回の調査結果と大きな相違はありませんでした。

フ) ホームカミングデーの実施

既に3期の卒業生を世に送り出していることより、1) 母校に帰校する機会を設け、同窓生や教職員との交流をもつことで、看護専門職としてのリフレッシュならびにキャリア支援の機会とする、2) 卒業生に西武文理大学や看護学部の現状を知ってもらう機会とする、を目的にしております。看護学部同窓会設立に向けた支援の場として、同窓会設立ならびに同窓会システムが確立したのちには、同窓会と看護学部の共催事業とする予定です。

平成27年度はホスピタル第1日目に合わせて初めてホームカミングデーを開催しました。看護学部同窓会専用のメールアドレスを取得するとともに、Facebookに「西武文理大学看護学部卒業生のページ」を開設し、現状報告とともにホームカミングデー開催を告知しました。また、卒業生全員に対して、大学保管の学生個人票住所に開催通知を送付しました。

内容は、学部長による看護学部の現状報告に続いて、卒業生からの現状報告を行いました。1期生11名、2期生7名、3期生3名 計21名の参加があり、少人数でしたが全員からの現状報告を聞くことができました。実施後にアンケートを実施し、ホームカミングデーを知ったきっかけは大学からの案内、友人であり、小人数ですが、各期生からそれぞれの参加もあり、概ね好評であったと評価できます。平成28年度も近況報告と卒業生同士の交流を中心とした企画を行う予定です。

ク) 地域貢献活動

イ) 地域住民の健康増進活動への参加と支援

ア) 「高齢者のアクティビティ・ケア学習」

さやま市民大学（H26年度に狭山元気大学より名称変更）の「健康づくり・介護予防サポーター養成学科」の受講生と本学看護学部の学生が共同授業として「高齢者のアクティビティ・ケア学習」を行い、相互理解を深めるとともに、学生にとっても効果的な学修体験となりました。

イ) 地元住民主権の「健康ひろば」、「防災キャンプ」への参加

狭山市柏原地区の住民と連携を深めるため、看護学部の教員と学生が老人クラブ連合会主催の「健康ひろば」に参加して健康講話や健康相談、体調チェック、体操等の活動に協力しました。

「柏原地区防災キャンプ」は、柏原地区でこれから起こり得る大地震等の災害に備え、自治会をはじめとする地域活動団体と学校、地元企業、行政（地区センター等）が協働して、「備えあれば憂いなし」のまちづくり推進事業を実施すること、地域住民一人一人の防災意識を高める地域の連携力を強化することを目的として実施されたものです。平成27年度は学生と教員が「柏原地区防災キャンプ」に参加し、小学生や地域住民との交流を深めるとともに、災害時の避難所における住民の反応や健康問題、そこでの看護職の役割を学ぶ貴重な体験となりました。この事業の更なる推進に向け、教員が実行委員として企画・運営に参加し、今後も学部として継続的に支援、連携していく予定です。

ii) 地域の看護職の研究活動支援

地元に着した教育・研究機関として、平成27年度も臨床看護職の研究活動の支援を行いました。地域の看護協会支部に所属する臨床看護職を対象とした「看護研究の実際」研修や、地元病院での「看護研究講座」を実施し、いずれも看護学部教員が研修会の企画と運営の指導にはじまり、講師として講義や看護研究の実際の指導を行ない、研究計画書の作成、実施、結果の分析、研究成果の公表まで、1年間を通じて指導にあたりました。年度末に各支部そして院内での研究発表会を行いました。

また、地域の看護職の方にキャンパスを開放しての研修は、地域に根差した大学としての社会貢献活動としてアピールする良い機会となりました。指導プログラムと本学教職員のホスピタリティ溢れるきめ細かな指導と配慮に対する地域の看護専門職からの信頼と評価は高く、今年度も継続して支援を行っていく予定です。

(3) 西武学園文理中学・高等学校

1) 西武学園文理中学校

①12年間一貫教育

本学園の教育の重点目標として各校が取り組んでいる“グローバル人材育成プログラム”は、日本の伝統と文化を十分に理解したうえで国際人としての教養と洞察力を身に着けることを目指すもので、西武学園文理小学校・中学校・高等学校の12年間にわたって推進されております。

また、本校では“本物”に触れる体験や、早くから社会の一員としての自覚を高めるためのキャリア教育も重視しておりますが、これからも文理の教育方針を実現するための特色ある教育活動に取り組んでまいります。

②英語教育

西武学園文理小学校では英語に親しむことを目的としたイマージョン教育を通じて、特に、listening力とspeaking力を養い、文理中学校では、それを引き継いで大学入試に向けたreading(表現)力、writing力を伸ばす教育へと展開してまいります。

今年度も、夏休み中に希望者を募って外部施設での“一日中英語漬けとなる合宿研修（イングリッシュサマースクール）”を実施したほか、同じく夏休み中に高校生を対象にハーバード大学の学生を招いて校内で開講した「ハーバード大学英語プログラム」に中学3年生の希望者も参加し、“英

語で考え、それを相手に伝える”という国際社会で基本となる技能訓練に取り組みました。最終日には高校生にまじって中学生もボディアクションを交えたプレゼンテーションを行うことができ、英語に対する自信を深める成果が認められましたので、来年度からは参加者を中学2年生まで拡大することも検討しております。

なお、授業の進め方として習熟度別授業も取り入れることで、全生徒のレベルアップを目指すなど、語学を通じてのグローバル人材育成を進めております。

③イタリア研修

グローバル教育の一環として、世界の歴史の原点に触れることを体感するイタリア研修を今年度も中学3年生全員で実施いたしました。

生徒はあらかじめイタリアの文化・歴史・観光施設などを調べてクラスごとにオリジナルのガイドブックを作成いたしました。それ以外にもホテルでのテーブルマナー講習やイタリア人講師を招いてのイタリア語講座受講など、幅広い事前準備を通じて現地での研修をより有意義なものにすることができました。

また、恒例のヴァチカン訪問では、1万人以上の信者が集うローマ教皇の謁見式に参加させていただくことができ、独特の雰囲気の中での異文化体験は将来の国際人をめざす生徒にとって貴重な経験となりました。

④日本の伝統と文化に触れるアクティブラーニング

グローバル社会で活躍する人材は総じて母国の伝統を大切にしていることを踏まえ、本校でも日本人としてのアイデンティティを確立させるために中学2年生で鎌倉校外学習、奈良・京都研修旅行などのアクティブラーニングを取り入れております。校外学習や研修旅行では、事前研究としてグループごとにオリジナルパンフレットを作成、事後学習としても発表用資料を作成する等、少人数の班別共同作業を通じて学習効果を高めるとともに、現地で指導いただいたガイドさんへのお礼状発送など、社会人としての礼節も学びました。

2)西武学園文理高等学校

平成26年12月の中央教育審議会答申を受けて、文部科学省では大学入試改革の具体化に向けた検討が進められております。

本校では生徒の進路選択をサポートするため、海外大学への進学者や内外各界で活躍する卒業生の協力を得て在校生向けの講演、説明会等を数多く実施し、生徒の視野を広げる試みを続けてまいりました。これからも大学入試改革に備えてさらに各方面からの情報収集に努めるとともに、進学校としての新たな取り組みを検討してまいります。

① 先端科学講座

「高き志」を実現するために大学進学を目指している生徒の学習へのモチベーションを高めるため、本校では“知的な刺激”として、著名な先生をお迎えしての先端科学講座を継続的に実施しております。

中でもノーベル賞を受賞された先生をお招きして毎年実施してきた「ノーベル賞シリーズ特別講演会」では、2008年にノーベル物理学賞を受賞された名古屋大学特別教授の小林誠先生にご来校いただき、「物理学の勧め」と題してご講演をいただきました。物理学についてわかりやすくご説明いただくとともに、生徒からの質問にも丁寧にお答えいただくことができ、前年度の白川英樹先生（ノーベル化学賞）、前々年度の鈴木章先生（ノーベル化学賞）に続く“知的な刺激”を通じて、

参加した生徒はそれぞれの「将来の大きな夢の実現」に向けて決意を新たにする機会となりました。

また、理数科としての先端科学講座・総合学習として、「生分解性プラスチック分解菌の植菌実験」を行ったほか、継続的に実施している「ロボット製作」では、本年度も首都圏の進学校が参加するロボットコンテストで優秀賞・審査員特別賞を受賞いたしました。

これからも、生徒の進学動機を高めるためのきっかけ作りに注力してまいります。

②英語研修

i) ハーバード英語プログラム

7月23日から3日間、校内で現役のハーバード大学生によるハーバード英語プログラムを実施いたしました。このプログラムは「考える力」（クリティカルシンキングスキル）と英語によるコミュニケーションスキルを伸ばすことを目的とするもので、学生に同行した研修指導者（プログラムスーパーバイザー）の指導ガイドラインに沿って効率的な研修が行われました。語学に関心のある中学生も交えて初日は戸惑いも見せていた参加者はプログラムの進行に伴って自信を深め、実践的な英語研修を通じてグローバル人材への自覚を高めることができました。

ii) カリフォルニア大学バークレー校での夏季語学研修

7月26日から10日間、希望者を募って世界トップクラスのカリフォルニア大学バークレー校での夏季語学研修を実施いたしました。この研修では世界各国からの参加者とともに寮生活をしながら授業を受けたり、同大学の学生との交流プログラムやスタンフォード大学訪問などを通じて様々な国からの参加者と交流することができ、英語力向上に加え、“国際人”をめざして人間的にも大きく成長できたことを実感する機会となりました。

なお、スタンフォード大学では同大学で教鞭をとる文理卒業生からお話を聞き、本校からの参加者一人ひとりに激励のことばをいただくこともできました。

この語学研修は事前研修と事後のフォロー研修がセットされた4～5か月をかけての育成プログラムとなることもあり、参加者の大きなスキルアップが認められる試みとなりました。

iii) イングリッシュサマースクール

8月17日から3日間、千葉県で希望者によるイングリッシュサマースクールが開催されました。この研修は一日中英語漬けで進められる集中プログラムで、与えられたテーマに沿っての原稿作成から効果的なプレゼンテーションの進め方まで、英語でのグループディスカッションを通じて習得していくというハードなカリキュラムで運営されます。短期間ですが、参加者同士の交流が深まるとともに、国際人として必要な情報発信力を訓練できる貴重な体験となりました。

① 理数科サイエンスイマージョン

大学での研究生活をイメージし、先端科学講座の一環として理数科2年生を対象にサイエンスイマージョン（英語による科学実験実習）プログラムを実施いたしました。

理系学部では研究発表や学会発表、共同研究などに英語能力が不可欠であることを踏まえたもので、オックスフォード大学で化学を専攻していた学園の外国人英語教員を講師として、実験授業のすべてが英語で行われ、生徒による英語でのプレゼンテーションも行われました。

参加した生徒にとっては学術英語を身近に感じ、授業の楽しさと同時に普段の英語とは異なる難しさを実感できる体験となりました。

②合教科型授業

大学入試改革の中でも検討されている“合教科型授業”をオープンキャンパスの体験授業に取り込み、本校への進学を目指す中学生に体験していただきました。

この授業は、社会の変化に主体的に対応できる能力を育成するため、教科の枠を超えた内容で行われるもので、新しい試みに戸惑いを見せていた参加者からも次第に活発な意見が出されるようになり、参加した中学生にとっては進学校としての文理でのキャンパスライフに期待を膨らませる体験となりました。

③川越イノベーションセンター

下校途中や休日・夜間にも利用可能な校外の学習施設として川越駅近くに設置していた合格学習塾「川越イノベーションセンター」を川越駅に隣接したビル内に移転し、更に利便性が高まりました。

この施設は学校での緊張感を持続したまま夜10時まで利用できるため、通学ルート以外の生徒の利用も多く、大学進学実績にも大きく寄与する施設として注目されているほか、交通の利便性を生かして生徒が利用しない時間帯には保護者相談会も行われました。今後も更に効果的な施設運用を検討してまいります。

(4)西武学園文理小学校

1)アフタースクール

アフタースクール“グローバルアカデミー”は、保護者からのご要望を受けて運営時間の延長、対象学年を1年から4年生まで拡大し、運営日も平日の月曜から金曜まで毎日の運営といたしました。また、今年度より長期休業中（夏休み・冬休み・春休み）の運営も本格的に開始致します。

内容的にも学習への興味を高める取り組みや、自主性、プレゼンテーション力の向上など、授業時間とは異なる運営にすることで好評をいただいております。

2)多彩な体験学習

グローバル人材の育成を目指す教育方針に則って5年生は英国短期留学、6年生は米国研修という海外研修を実施しておりますが、計画的な事前教育の一環として、3年生は名門「八芳園」で和食の作法研修を、4年生ではプリンスホテルでのテーブルマナー教室を実施し、世界に通用する人材としての基礎教育にも注力いたしました。

また、授業の中で田植えや稲刈りを体験、書初めや百人一首などの日本文化、日本人としてのアイデンティティを大切にしたい取り組みをはじめ、多彩な体験学習を取り込んでおります。

3)知性を育てる

①プレゼンテーション力を鍛える

知識を使って自ら考え、表現するコミュニケーション力を鍛えるということで5～6年生の2年間をかけて「卒業研究」を行っている。課題設定→調べる→考える→まとめる→プレゼンテーション→ディスカッションというプロセスの中で6年生の3学期、保護者全員の前で一人ひとり発表し、まとめる力だけでなく、人にわかりやすく伝えるという体験も取り組ませております。

②ゼミナールと補講

学習内容の確認や復習、不得意分野の克服、また得意分野を伸ばすために、中学高校と同様なゼミナールと補講を1学期と3学期に取り入れ、次の学年に繋がるよう取り組んでおります。

(5) 専門学校

専門学校各校は文化祭等を通じて、地元の皆さまに各校の特色を伝え、特に栄養士・調理師科では地産地消など地元農産物のアピールに協力し、地元との連携にも注力しております。

1) 所沢市との官学連携協定

専門学校生が地元の所沢産の野菜をアピールするため、オリジナルレシピを開発するなど、従来からの幅広い協力関係を更に拡大しています。

2) 食育シアター

栄養士科2年生が近隣の小学校を訪問し、低学年の児童を対象に食育シアターの寸劇を通して朝食の大切さをアピールしています。

以上